発展祈り開港百年祭

高松利助氏ら18人を表彰 苦難にみちた一世紀

新潟港の開港を祝う式典は県、市、商工会議所、新潟日報の四者共催で、八月二十一日午前、市体育館で盛大に開かれました。式典には運輸大臣代理菅崎港湾局長、北村日本海沿岸貿易促進協議会会長、稲葉県選出国会議員代表ら、中央からの来賓をはじめ、経済界、港湾関係者約千人が参集しました。万国旗とまん幕を張りめぐらした式場では、まず港の発展と安全を祈念する神事を行なったあと、新潟港の発展に大きく貢献した十八人の人たち（別項）を拍手のうちに表彰しました。また、式典終了後表彰を受けた人たちによる座談会が開かれました。

一層の協力を得て新潟港の発展を図ると力強くあいさつする渡辺市長

港の懐古

表彰者座談会は会場をイタリア軒に移し、赤木県港湾課長の司会で行なわれました。上流からの流下土砂で港口が埋まって苦労した話や、日本海の荒波に抗して敢行した築港の苦労など、開港百年にふさわしい思い出話が続きました。そのうち、おもな発言を要約し、二回に分けてお伝えします。

"しゅんせつ"に苦労

大島太郎氏

きょう八月二十一日というのは私にとって非常に記念すべき日です。私が信濃川の河口工事を申し付けられた日が、ちょうど今から五十年前、つまり大正七年八月二十一日でした。

当時の新潟港は新潟市が経営していました。すでにその前年の大正六年から新潟港築港工事が起工されてはいましたが、実際の仕事は何もしていない状態でしたね。

今の第一港湾建設局新潟港工事事務所のところに、小さな工事事務所がありましてね、そこから対岸を見ますと、実に茫漠（ぼうばく）としており、こんなに大きな川が日本にあるのか、とびっくりしたものです。

初めて灯台ができたのは大正十四年だったと記憶していますが、信濃川の改修費であれは造られたんですよ。

その当時、事務所の近くの高台に水戸教というのがあり、毎日河口の水深を測って、沖の船に信号旗を掲げて知らせていましたね。水深は九尺か十尺（二・七㍍か三㍍）でした。ところが春になると雪解けの水といっしょに上流から大量の土砂が流れてきまして、水深がたったの六尺（一・八㍍）になってしまうという状態でした。

大正十一年八月に大河津分水が完成しましたので、それ以後は水戸の状況はすっかりよくなり、雪解けになっても極端に浅くなるようなことはありませんでした。

それでも水深は十二尺（三・六㍍）くらいが普通でしたね。私どもの目標は二十五尺（七・五㍍）でしたが、今から見れば幼稚な掘削機械でしたからなかなか深くなりません。毎日事務所の門をはいるとき、水戸教の屋上に掲げられた旗を見て一杞（き）一憂してました。十六尺になると鬼の首でも取ったように喜んだものです。

大正八年ころのことですが、ポンプ船阿賀丸、神通丸とバケット船を加え六隻で掘りまくったことがあります。奨励金を出しましてね、互いに競争させたわけです。その結果水深が目標の二十五尺になったこともありました。

とにかく当時をふり返ってみて、一番苦労したのはしゅんせつでしたね。

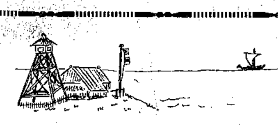
もっぱら"沖"で"荷役"

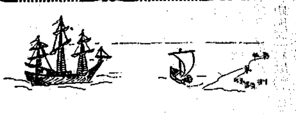
鹿島金蔵氏

私が新潟艀曳船（はしけひきふね）会社に入社したのは大正二年の二月です。当時突堤はありましたが、セメント・ブロックかなんかみたいで、簡単なものでしたね。そんなわけで川の中へ船がはいれないので、ハシケ荷役はもっぱら沖でやりました。ところがシケになると荷役ができなくなるもんですから"浜上げ"と称しまして荷を積んだままのハシケを砂浜へ引き上げたり、松ケ崎の方へ逃げたりしたことがありました。

そのころの船荷は米が主でしたね。そのほか塩ザケ、塩マスなどを扱いました。春になるとカムチャッカへ百トン前後の帆船が出漁して行きましてね、その船に届ける塩の荷役もかなりありました。

顕彰と表彰に輝く人たち





☆安芸　杏一氏（故人）

明治30年から大正2年までの間，土木監督技師として港湾の調査測量と信濃川河口修築工事を担当，港湾の改良，水深の維持に尽力した。特に海上の風波荒く困難な工事とされていた西突堤の築造を計画し，明治36年に完成させ，港勢発展の基礎を固めた。

☆川上佐太郎氏（故人）

大正7年，株式会社「新潟健康社」の牧野を築港の計画で買収し，更にこれを拡張するなど，将来を見通して築港の重要性を主唱し自ら技術者を招いて港湾施設の計画を立てるなど，臨港埠頭の基礎を確立した。

☆小林　誠弥氏（故人）

大正7年，株式会社「新潟健康舎」の役員として土地開発に尽力。大正9年新潟臨港株式会社の常務として山ノ下地区砂丘地の改良を行ない，湿地の埋め立て，運河の掘削，岸壁の築造，臨港鉄道の敷設など，臨港埠頭の建設を実施し，同埠頭の基礎を造った。

☆関屋儀八郎氏（故人）

明治22年より6年にかけて，県会議員並びに衆議院議員として，日本海側発展の大計は対岸との通商と漁業にあると主唱。また，初めて新潟港より沿海州に出漁し成功を収めた。さらに新潟―ウラジオ間定期航路の開設に努め，明治29年にこれを実現させた。

☆中山忠次郎氏（故人）

明治40年5月東洋物産株式会社を設立。専務取締役として海上運送業，遠洋漁業など多角経営を行ない，港の振興に積極的に取り組んだ。また，沿海州漁業の重要性を説き，自ら漁区の入札，漁場の視察など漁業の開拓を行なった。

☆野村治一郎氏（故人）

北日本汽船及び日本海汽船の社長在任中，日満航路の重要性に着目し，昭和10年新潟―北鮮間に嘉義丸を就航させ，引き続き満州丸，月山丸，天草丸，白山丸を就航させた。

☆小沢七三郎氏（故人）

新潟艀曳船（はしけひきぶね）会社社長在任中の大正4年，日本石油黒川油田の原油，重油をタンカー船千代田丸を新造して，新潟港へ初めて陸揚げし，油輸送の基礎を確立した。また，汽船大平丸により新潟，小樽，大阪航路を開設したほか，ハシケによる荷役力の整備拡充に努力。

☆塩野健太郎氏（故人）

明治40年新潟艀曳船会社の支配人として就任以来，艀業の草分けとして活躍したほか，貨物の増加に努め船舶代理店の基礎を築いた。また，商工会議所交通部長としてウラジオ航路の復活，北鮮定期航路の実現，その他新潟港の宣伝開発に尽力した。

☆伊藤仁太郎氏（故人）

明治40年家伝来の水戸教を受け継いでから港口の深浅測量，出入船舶の見張り，通信海上気象及び海波の動静，海難救護など，終始一貫新潟港の航行安全に心血を注ぎ，水先案内の先駆者として多年にわたり活躍。

☆大島　太郎氏（西宮市在住）

大正7年から昭和2年までの間，新潟港修築工場主任として第1次新潟港修築工事を担当。下流右岸の埋め立て，航路のしゅんせつ物揚げ場，防波堤の築造に尽力した。特に県営埠頭の築造を完成し，大型船舶の入港できる近代港湾の基礎をつくった。

☆山田　三郎氏（鎌倉市在住）

昭和14年から新潟港修築事務所主任として第2次新潟港修築工事を担当。防波堤，物揚げ場の改良工事を施行した。また，昭和17年からの緊急工事には，新潟土木出張所長として南桟橋，万代島桟橋の建設及びしゅんせつに尽力し，日満航路の発展とともに大型化した入港船舶の安全と水深の維持を図った。

☆渡部　弥作氏（横浜市在住）

昭和19年から新潟港工事事務所長及び第一港湾建設部長として荒廃した新潟港を再建し，港湾の整備，航路幅の拡張，水深の維持に努め，また新潟港技術調査委員会委員長として本格的な埋没対策及び新潟港防災対策の基礎を確立し，退職後も引き続き新潟市の技術顧問をするなど新潟港の発展に尽力。

☆大久保賢治郎氏（東京都在住）

昭和29年新潟臨港開発社長に就任以来，その高度の識見と卓越した経営手腕をもって，新潟港の海運事業全般の振興に努め，今日の新潟港繁栄の原動力として活躍。その業績は高く評価されている。

☆渡辺吉次郎氏（市内下所島）

明治時代から港湾改修がなされるまでの間船内仲仕業を専業とし，その後新潟運送会社役員として，港湾の荷役改善について調査研究し，荷役器具の改良につとめるなど，約40年間にわたり終始一貫船内荷役を通じて港湾荷役の向上に努めた。

☆鹿島　金蔵氏（市内西湊町）

新潟港の荷役作業，曳船（ひきふね）作業の改善に努め，戦時統合による港湾運送事業の運用に海陸一貫の必要性を重視し，荷役の一元化にほん走その実現を図った。更に新潟港桟橋会社の代表取締役として，石炭荷役専用の木桟橋を建設し，京浜方面への石炭輸送を行ない，現在の新潟港の荷役力を高めた。

☆高松　利助氏（市内西大畑）

大正15年新潟港湾倉庫株式会社常務取締役に就任以来36年間，広く販路の開拓および貨物の誘致に努め，特に樺太パルプ，新聞巻取紙，満洲産大豆，大豆カスの受け入れに成功するなど，新潟港発展の大きなけん引力となった。また臨港倉庫株式会社の合併にほん走し，倉庫業の統合を図り倉庫の整備と経営に努めるなど新潟港の倉庫業の先駆者として活躍。

☆川原　乙松氏（市内流作場）

約40年にわたって新潟港水先案内人として活躍し，新潟港に大型船の入港を可能にするなどその案内技術は高く評価されている。また卓越した識見をもって業務の改善と港の発展に取り組み，かたわら後進の指導育成に努力。

☆都築譲一郎（高知県在住）

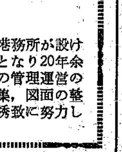
大正15年，新潟港築港完成で港務所が設けられたとき，招かれて初代所長となり20年余所長を勤め，その間新潟港初期の管理運営の体制を確立したほか，資料の編集，図面の整備など，新潟港の宣伝，貨物の誘致に努力した。

おいしいお酒
千代の光（書体）
小松原醸造

年寄りの日によせて
あなたの若返りに
ナショナル健康器 普及型 正価 15,000円 標準型 正価 28,000円
新潟ラジオ電器
万代店
流作場小島 TEL (44) 6351

あすなろの銀行
殖産相互銀行
新潟支店……古町8中央会館一階
国税，県税，市税を扱って居りますので御気軽に御利用下さい。
◆代表電話 TEL 28—7705

住宅の新築，増改築
資金は住宅金融公庫
をご利用ください。
皆様の銀行
新潟信用金庫
本店……市役所向い



総合結婚式場 婚礼
平安閣 高級御婚礼貸衣裳
学校町二
電話㉓1141番

住宅に夢を！
ヤ マ ハ バ ス
ヤマハバイラントガス湯沸器
北陸金網工業（株）
新潟市東大通り2
建材部 電話 (47) 7371番

今日も!! 明日も!!
塚田牛乳
白山浦2丁目35／TEL㊻3121